教員名	佐々木　泰子　(SASAKI　Yasuko)
所　属	国際教育センター
学　位	文学修士　(1978　お茶の水女子大学) 人文科学修士　(1993　お茶の水女子大学)
職　名	助教授
URL　／　E-mail	http://jsl2.li.ocha.ac.jp/kyookanHP/sasa.html　／ sasaki.yasuko@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

コミュニケーション　／　談話分析　／　会話分析　／　相互行為　／　ナラティブ

◆主要業績　　総数　(　5　)件

・「課題達成型討論における沈黙の分析」『国際行動学研究』第 2 巻　国際行動学会　pp.27-38
・「物語の相互行為的分析」社会言語科学会第 18 回大会論文集　pp.52-55
・「JFL 環境における日本人と中国人日本語学習者の会話に関する一考察
An analysis of Japanese conversations between native Japanese speakers and Chinese learners of Japanese in a JFL environment」Association for Teachers of Japanese Seminar　(Chicago) 2007 年 3 月 22 日

◆研究内容

私達は学校や職場、あるいは家庭で日常的に他者と会話をしている。そして、その中には複数の人々の間で考えや意見をまとめるという行為がある。だが、そのプロセスについては、普段、あまり意識することはない。しかし、例えば、異なる文化圏の出身者がその会話に含まれていたらどうだろう。同文化間の参加者だけの会話の時とは合意あるいは不合意にいたるプロセスが異なることが予想されよう。そのような問題意識のもとに複数の参加者間のディスカッションの分析を談話分析の手法を用いて行った。

その際、コミュニケーションを話し手から聞き手への意味の伝達という一方向的なモデルとして捉えるのではなく、話し手・聞き手の相互行為によって意味が作り上げられていく過程と捉え、会話に現れる談話標識、沈黙、役割意識などを手がかりに分析を試みた。

その結果、私達は、談話標識や沈黙などの言語、非言語を用いてディスカッションにおける自分の役割を果たしつつ、意味の生成に貢献していることが明らかになった。

◆教育内容

【学部】

留学生を対象とした授業では、書くという行為に必要とされる日本語を学ぶ。テーマに関するブレーンストーミング、作文の推敲過程に参加者同士のディスカッションなど協働的学習を取り入れた。また日本語日本文化研修留学生を対象とするクラスでは、1 年間の研修のまとめとして修了レポートを書くという課題をプロジェクトワークを通して達成する。

日本語教育基礎コースの授業では、将来日本語教師を目指す学生を対象に、日本語を母語とする人と日本語を母語としない人のより良いコミュニケーション場面をデザインする方法について実践を通して学ぶ。

【大学院】

大学院生を対象としたクラスでは、談話分析・会話分析について実際にデータの収集・記述を通して学びつつ、文献講読を通して談話分析・会話分析への理解を深める。指導学生のテーマは例えば、チャットの会話の研究や会話における話題転換の中日比較研究など。

◆Research Pursuits

My current research is primarily concerned with the disciplines of discourse analysis. I am concerned to explain the characteristics of the Japanese written and spoken discourses.

In the academic year 2005, the main focus of attention of my research was set on the interaction of individuals in the experimental multi-participants' discussion situations in order to analyze how they negotiate and reach an agreement.

◆Educational Pursuits

In the undergraduate program, I taught a Japanese language classes for foreign students and a teachers' training course of Japanese as a second language. My classes were designed to develop the ability of the interaction with multicultural participants.

In the graduate program, I taught the methodology of discourse analysis and conversation analysis. Based on the alternative methods, students were asked to describe their interactions with their friends and neighbors and to investigate how people negotiate and reach an agreement.

◆共同研究例

幼児から大学生までのコミュニケーション能力育成モデルの開発
大学での学習を支える日本語表現能力育成カリキュラムの開発
日本語学習者による日本語発話と、母語話者との対照データベース

◆将来の研究計画・研究の展望

同一文化内のコミュニケーションだけでなく異文化間のコミュニケーションの実態を明らかにすることを通して、多文化共生社会に資するコミュニケーションのあり方についての考察を行った。この成果に加えて、幼児から大学生までのコミュニケーション能力の発達モデルの開発、大学での学習を支える日本語表現能力育成カリキュラムの開発を目指す。

◆受験生等へのメッセージ

日本社会の多文化化に伴い、私達はコミュニケーションスタイルの異なる人たちとコミュニケーションをする機会が今後ますます増えていくことが予想されます。そのような社会にあって言語の果たす役割はこれまで以上に重要になると言えるでしょう。

また私たちのコミュニケーションには対面の会話だけではなく、電話による会話、携帯メールやインターネットを媒介としたチャットなど様々な手段が考えられます。皆さん自身や周りの人たちの言語行動を分析することを通して、言語を用いて私たちはどのようにコミュニケーションを成し遂げているのか、それらは文化背景の違いによって異なるのかなどについて一緒に考えてみませんか。